

いのちのたび博物館

9月23日、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）から町恐竜博物館へ義援金が贈られました。いのちのたび博物館は7月1日から開催した特別展「恐竜博2016」展で、復興支援のため義援金の募金活動を実施。募金のほか、熊本から7月中に訪れた特別展来館者の入場料を義援金として渡されました。上田恭一郎館長は「市をあげて熊本を応援しようと企画しました。博物館の補修費などにつかってもらえれば幸いです」と話しました。



藤木町長に義援金を渡す上田館長（左）

水越秋の収穫祭

9月25日、旧水越小学校グラウンドで「水越秋の収穫祭」が開催されました。里芋掘り体験では町内外から22人が参加し、道具の使い方などを教わりながら里芋を収穫しました。会場では地元農産物や加工品が販売されたほか、さまざまなイベントが行われました。主催した水越地域活性化協議会会長の古閑和博さんは「地震や大雨で被害を受けたが、収穫祭を開催できたのは大きな一歩。これから復興に向けて頑張っていきたい」と話しました。



里芋掘り体験やたくさんのイベントが行われた

下辺田見で寿会の親睦会

9月26日、下辺田見区寿会の親睦会が行われました。お弁当を食べながら会員同士の親睦・交流を図るのが目的。区の協力もあり、今年は64人が参加しました。親睦会では賞品を賭けてビンゴゲームをしたり、カラオケを楽しんだり、会場はとても盛り上がっていました。寿会会長の久保洋一さんは「見えないところでみんな心に傷を負っている。この会を少しでもみんなのよりどころにしたいです」と語っていました。



ビンゴゲームを楽しんでいる会員たち

みふね福祉絆塾・救命処置講習

みふね福祉絆塾生が9月26日、上益城消防本部で救急救命士による救急救置の講習を受講しました。「いつでも起こりうる災害に対応できるように、何かできることがあれば」と会長の馬場洋一郎さんは話します。救命処置で重要な胸骨圧迫とAEDの使用方法を学び、講師である隊員の話に熱心に聞き、実際に体験しました。今回の講師である救急救命士の木庭大佑隊員は「まず処置の知識、そして一歩踏み出す勇気が必要。それが救命につながる」と熱く話しました。



救急救命士に指導を受ける受講者たち

水越東部老人クラブで誕生会

9月11日、有水公民館で水越東部老人クラブの誕生会が開催され、25人が参加しました。参加者が持ち寄った手作りの煮物やだご汁などが並んだ会場では、カラオケやマジックが披露され、会場は賑わいました。今年95歳をむかえたクラブ最高齢の水野信博さんは「カラオケや畑作業が趣味。趣味を大切にしている」と元気の秘訣を語りました。同会長の松本俊雄さんは「震災後、一人暮らしが多くなった。みんなが集まる機会をつくることでお互い支え合っていきたい」と話しました。



95歳を記念して県の老人クラブから表彰を受ける水野さん

オアシスで敬老のお祝い

9月16日、養護老人ホームオアシスで敬老の日のお祝い会が行われ、今年88歳になった奥田マツコさんに米寿のお祝いとして町から表彰状と記念品が贈られました。記念品は毎年町内窯元で焼いた湯呑を贈っていましたが、窯元が地震で被災したことを受け、愛知県瀬戸市のろくろ師山内砂川さんが作成した、織部焼の長湯呑130個が愛知県陶磁器工業協同組合から無償で提供されました。会の最後は、コーラスカトレア会が美しい歌声を響かせ、入居者を魅了しました。



表彰状と記念品の長湯呑を持つ奥田マツコさん

グリーンヒルで踊りを披露

9月22日、特別養護老人ホームグリーンヒルみふねに藤間勢雀社中（藤間流師範・藤間勢雀）が慰問に訪れ、日本舞踊などの踊りを披露しました。踊りは、復興への思いが込められた「心太平」など10曲が選ばれ、入居者や通所者は踊りを楽しく鑑賞しました。藤間師範は「熊本地震で被災してから、もとの生活に戻れるよう稽古を頑張っている。今日は施設の皆さんと一緒に頑張ろうという気持ちを込めて、復興に向けた曲を踊りました」と話しました。



踊りを見て楽しんでいる観客たち

水越神社大祭

9月22日、水越神社で1年に1度の水越神社大祭が開催されました。今年は水越東部地区（榎園、姫椿、栗山）が主催。神事が執り行われたあと、子どもたちによる奉納相撲が行われました。江戸時代から続いていると言われており、東西に分かれて、構えて立合う子どもたちは、行司の掛け声で体をぶつけ合い、お互いの技をかけ合いました。奉納相撲での優勝者は、大関の称号を得ることができます。今年の大関は、熊本市の穴見遥斗くん（小5）に決まりました。



はっきょーい、のこった！